

楽しく!自由に!音楽を届ける

「コスモス鉄道」

女鳥羽川沿いにあるイベントスペース「Give me little more.」を拠点に活動する4人組バンド「コスモス鉄道」。今年3月に初の全国流通のミニアルバム「あしたのメ」をリリースしたばかりです。今回は「楽しむ」を軸にライブで元気に明るい音楽を届ける4人にスポットを当てます。



ライブの空気感を大切に「楽しく」活動

「コスモス鉄道」が活動を始めたのは2018年1月。信州大学のバンドサークル・ピートルズ研究会に所属していた金沢里花子さん（ボーカル／ギター）が「自分で書いた曲がメインのバンドをやってみよう」とサークル内で声をかけたのがきっかけです。現在メンバーは櫻井隼彦さん（ギター）、小川寛史さん（ドラム）、茂山卓治さん（キーボード／コーラス）、金沢さんの4人。松本のイベントスペース「Give me little more.」でのライブ活動が中心で、松本でライブをする海外アーティストのサポートアクトも数多く務めてきました。

共通の思いは「楽しくやること」。櫻井さんは「仕事みたいになっちゃって楽しめない。もちろん、やらなきゃいけない思いもありますが、強制されるのは違う。自発的にやりたいという思いを大事にしています」と笑顔で話してくれました。

ベースレスの特殊編成 模索しながらいい音楽を

結成当初はボーカル、ギター、ベース、ドラムの4人編成でしたが、2018年12月にベースが脱退。「音楽のイメージをまとめてくれる人だったので、辞めた後は『どうしよう』と模索する感じでした」と小川さん。残った3人で何ができるかを探しながら音楽を続けるものの、なかなかしっくりこない日々が続きました。そこで金沢さんが「ピアノの合う曲

を必死で1曲つくって渡した」と以前から知り合いだったという茂山さんを半ば強引にバンドに引き込んだそうです。「なんでベースを入れないの?」と思いましたが茂山さんは笑って話しますが、雰囲気や呼吸が合って現在の特殊な編成が定着。金沢さんは「ベースレスの4人組は少し異様なので、参考にするものもなく苦戦しました。でもその分一人ひとりが考えるようになり、バンドに対する姿勢や曲作りやライブへの意識も変わりました」といいます。

に寄り添いながらもそれぞれが自分のパートを考えて構成します。「歌詞の意味を金沢さんに聞いたり、景色を想像しながら情報をくみ取ってつくっています」と小川さん。各自のイメージを少しずつまとめるため、納得の楽曲が完成するまでに時間を要することもあつたそうです。

「繋がり」を感じる松本で 背伸びせず活動

「大きすぎない街だからこそやりやすかったのかもしれない。音楽を通じて松本界限の人と繋がって困ったときや悩んだときは助けてく



左:金沢里花子さん (Vo./Gt.) 右:茂山卓治さん (Key./Cho.)

れます。ライブハウスで出会った人からどんどん派生して行って、いろんな職業の人と出会えました。本当にいい環境で音楽をやらせてもらっています」と金沢さん。アルプス公園で毎年開催されている野外音楽フェスティバル「りんご音楽祭」にも昨年念願がなつて初出演を果たしました。「今までの中で一番大きなステージだったので、緊張もあったけど達成感がありました」といい、櫻井さんも「ふらっと通りかかった人が聴いてくれたりとかして新鮮でした。楽しかったです」と振り返ります。

CHECK IT OUT



コスモス鉄道の1st Mini Album 『あしたのメ』より「日の入り」ミュージックビデオをチェック!



アルバム『あしたのメ』は、音楽ストーリーミングサービスspotifyでも全曲聴くことができます。



左:櫻井隼彦さん (Gt.) 右:小川寛史さん (Dr.)

